

# 旧荒川図書館及び旧教育センターの 暫定利用に関する説明会

平成29年5月11日(木) 19時～  
荒川区役所北庁舎 1階 101会議室

## 説明会次第

- 1 公共施設の順次更新について(総務企画課)
- 2 あさがお福祉作業所について(障害者福祉課)
- 3 多文化共生センターについて(子育て支援課)
- 4 旧荒川図書館及び旧教育センターの改修工事について(営繕課)
- 5 質疑応答

### 【配付資料】

- <資料1> 宮前公園等整備スケジュール等
- <資料2> 就労移行支援・就労継続支援B型 小台橋あさがお
- <資料3> 多文化共生センター東京パンフレット及びニュースレター
- <資料4> 旧荒川図書館及び旧教育センターの工事概要
- <資料5> 担当部署連絡先一覧

# 宮前公園等整備スケジュール

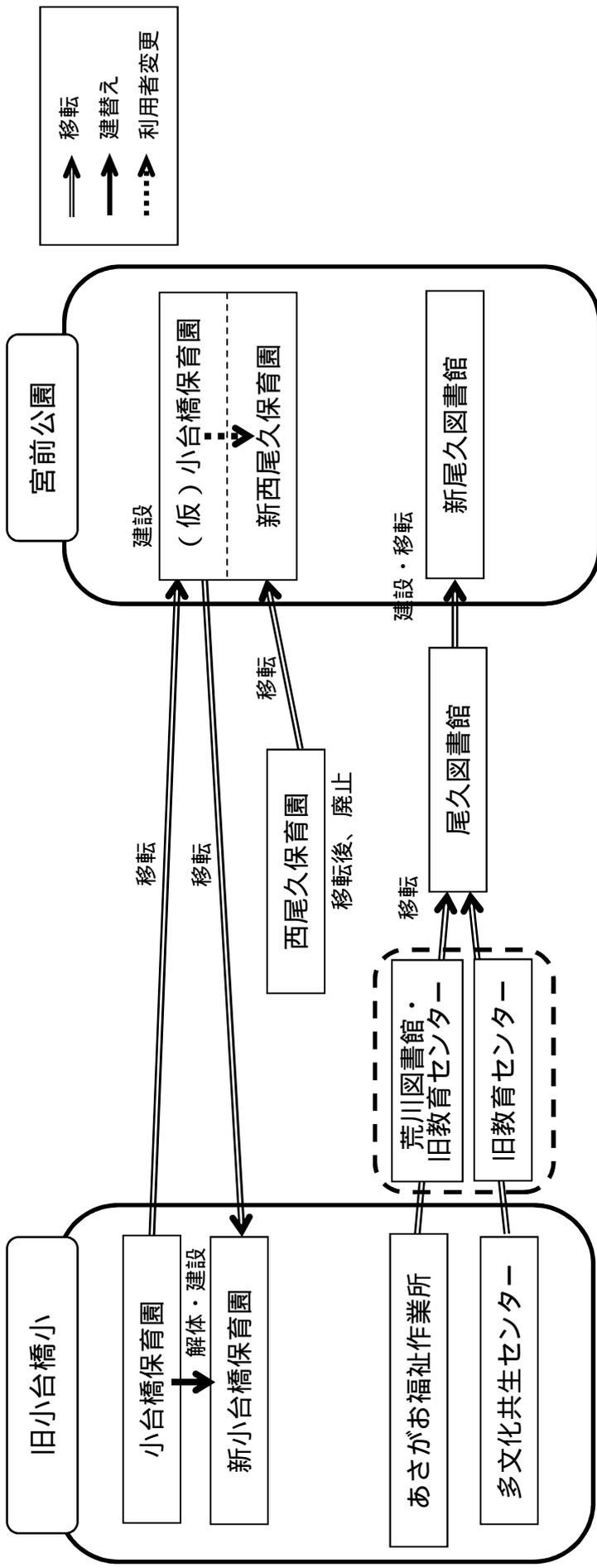
資料 1

内容	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
特区・区域計画認定	計画認定						
公園整備				公園整備			
		先行整備部分開園		公園整備			
新・保育園		建設工事		保育園運営(特区活用) 建て替え期間中、一時利用			
					保育園運営(特区活用)		
新・尾久図書館				建設工事		図書館運営	
現・西尾久保育園							廃止(跡地利用については今後検討)
現・尾久図書館							改修工事
旧荒川図書館 旧教育センター							
		改修工事		一時移転		解体工事	公園整備
現・小台橋保育園							
旧小台橋小学校舎 利用団体				解体工事			
新・小台橋保育園				建設工事			
							保育園運営(民設民営)

宮前公園

旧小台橋小学校舎

## 宮前公園周辺地域の公共施設更新イメージ



### 【公共施設の更新手順】

宮前公園内に新保育園舎を建設する。

老朽化が著しい旧小台橋小学校舎内の現小台橋保育園（公設民営）を宮前公園内の新保育園舎に仮移転させる。

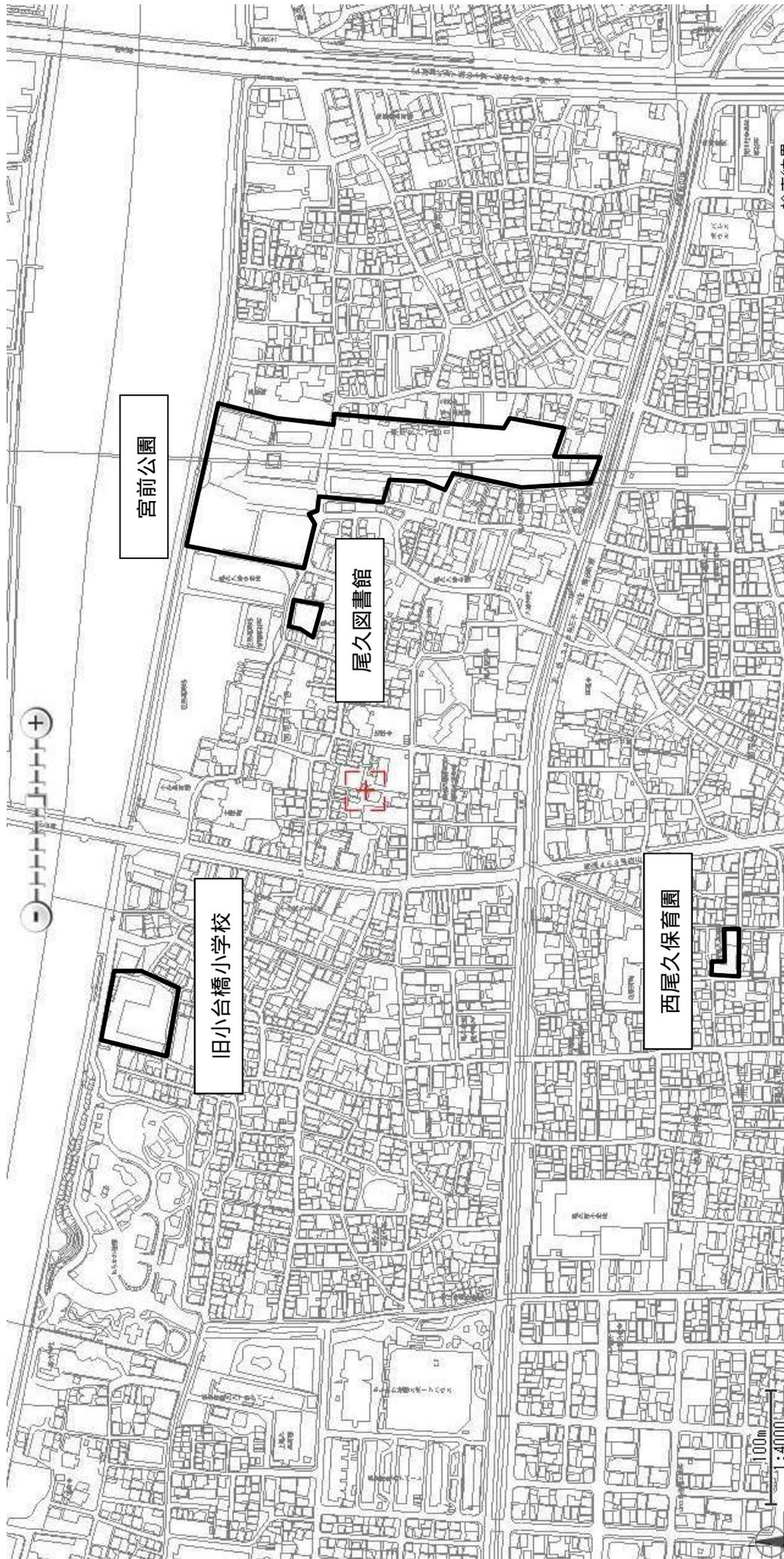
旧小台橋小学校舎を解体・除却し、跡地に新小台橋保育園（民設民営）を整備し、仮移転中の小台橋保育園を移転する。

その後、宮前公園内の保育園舎には西尾久保育園を定員拡大させた上で移転し、現西尾久保育園は廃止する。

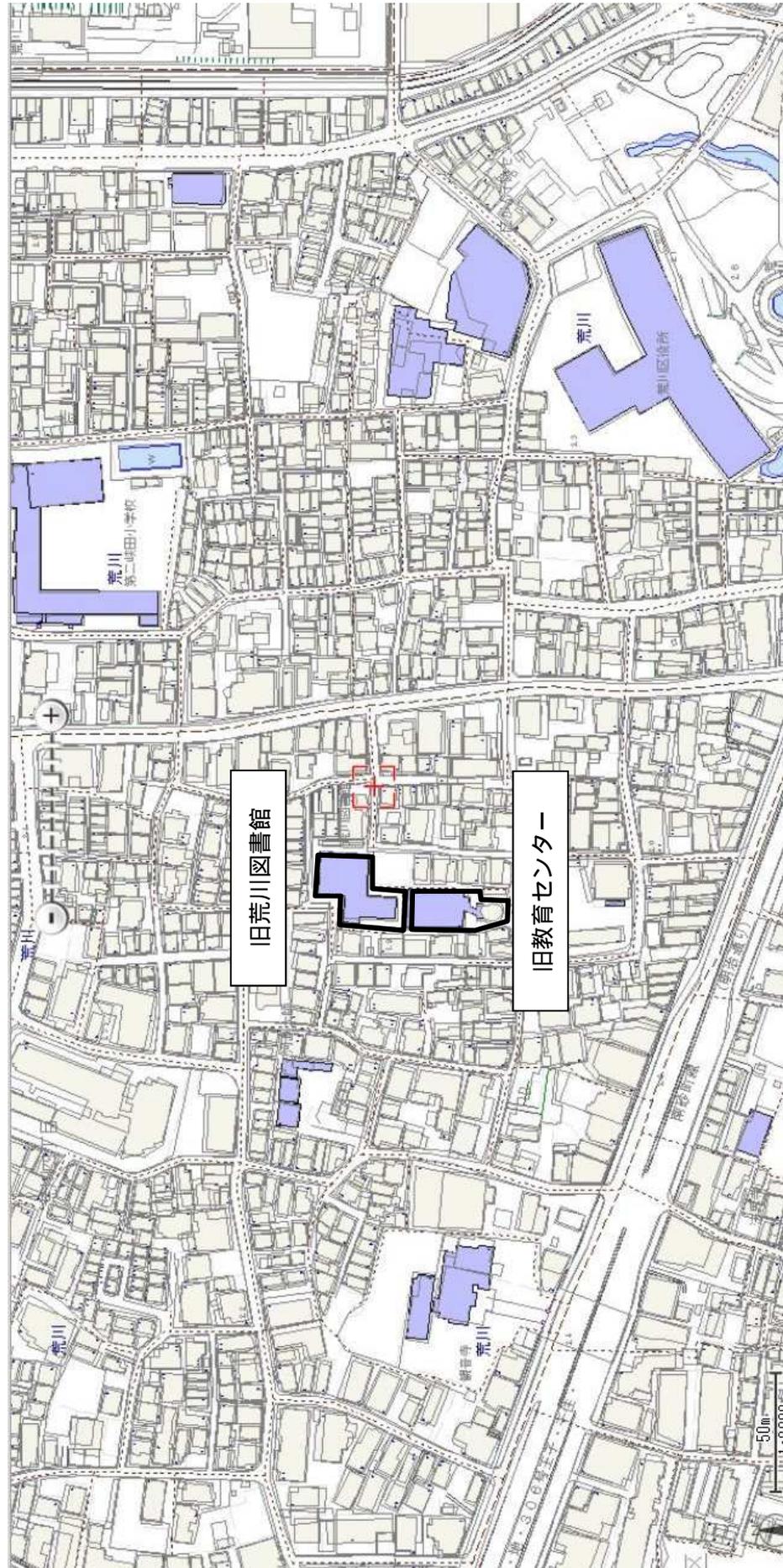
宮前公園内に新図書館を整備し、尾久図書館を移転する。

旧小台橋小学校舎を利用している、あさがお福祉作業所は荒川図書館及び旧教育センターへ、多文化共生センターは旧教育センターへ、それぞれ一時仮移転の後、旧尾久図書館に移転する。

# 宮前公園周辺地域の地図



仮移転先（荒川地域）の地図





## 就労移行支援・就労継続支援 B 型 小台橋あさがお

## 運営主体

特定非営利活動法人かがやき

## 目的及び事業の種類

特定非営利活動法人かがやきの目的を達成する為の障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業  
就労移行支援・就労継続支援 B 型施設 事業所番号 1311800740

## 利用者

主に知的障害者の方としています。

## 定員

移行 10 名・B 型 40 名

## 職員配置

施設長（管理者）1 名 サービス管理責任者 1 名  
主任 1 名 職業指導員 8 名 生活支援員 5 名  
就労支援員 1 名 総務・事務局 1 名（町屋と兼任）

## 作業種目

## 1 製造作業（移行）

パン・焼き菓子の製造販売をしています。

## 2 受注作業（移行）（B 型）

町屋の地場産業である鉛筆関連の作業やショッピングバック作成の作業  
などを行っています。

## 3 派遣事業（移行）（B 型）

アクロスあらかわ（荒川区立障害者福祉会館）内の喫茶店ステップへの接客従事者としての派遣。

## 4 その他

外部講師を招き週 4 回就労に向けたカリキュラムを実施。（移行）

外部講師を招き週 1 回敷地内体育館にてリズム体操を実施。（B 型）

## 開所日

月～金（8：30～5：15）

## 閉所日

土、日、祝祭日 夏期休暇 冬期休暇 その他法人が定めた日

## 行事

バスハイク、宿泊訓練、ハートの運動会、クリスマス会など

その時期にあった行事を行っています。移行と B 型の行事は一部異なります。

## 問い合わせ・連絡先

就労移行支援・就労継続支援 B 型 小台橋あさがお

〒116-0011 荒川区西尾久 6-9-7 旧小台橋小学校内

TEL 03-3800-8555（B 型第一作業所）

TEL 03-3800-2828（B 型第二作業所）

TEL 03-3800-3180（移行パン工房）



移行支援で行うパン・焼き菓子等の製造販売。

## 受注作業のショッピングバック



小学校の跡地を利用しております。



# 特定非営利活動法人かがやき概要

理事長

二瓶 峰子

本部

東京都荒川区町屋3-28-2 スタートまちや内

## NPO法人かがやきの目的

この法人は、なんらかの障害を持つ方々を対象として、障害者通所授産施設の運営事業を行い、障害者が地域の中で自立した生活が営まれるよう一般市民にその理解の促進を図り、就労等の支援またそれを支える生活支援を行うことによって、全ての人々が健やかに暮らせる地域社会づくりの増進に寄与することを目的とする。

## 沿革

- 昭和31年 知的障害者の保護者の有志が中心となり、荒川区手をつなぐ親の会を設立。
- 昭和56年 同会が知的障害者の通所授産事業を行う施設、「荒川あさがお福祉作業所」を開設。
- 昭和59年 「荒川あさがお福祉作業所」が東京都城北福祉センター分館2階に移転。
- 昭和62年 同福祉センター分館3階に「荒川第二あさがお福祉作業所」を開設。
- 昭和63年 東尾久に「荒川第三あさがお福祉作業所」を開設。
- 平成3年 旧真土小学校1階に「荒川第四あさがお福祉作業所」を開設。
- 平成11年 「荒川第三あさがお福祉作業所」が旧真土小学校2階に移転。
- 平成16年 「荒川あさがお、荒川第二あさがお福祉作業所」が旧小台橋小学校に移転。
- 平成18年 旧小台橋小学校内に「パン工房あさがお」を開所。
- 平成20年 親の会を母体に「特定非営利活動法人かがやき」が設立。
- 平成21年 荒川区手をつなぐ親の会よりあさがお福祉作業所並びにパン工房あさがおの運営を引き継ぎ、施設名を「第一あさがお」「第二あさがお」「第三あさがお」「第四あさがお」「パン工房あさがお」に変更する。
- 平成23年 「第三あさがお」「第四あさがお」が町屋に移転する。
- 平成23年 「第三・第四あさがお」が統合して就労継続支援B型「町屋あさがお」になる。  
「第一・第二・パン工房」が統合して就労継続支援B型・就労移行支援施設「小台橋あさがお」になる

## 事業の種類

この法人の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- 障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業  
就労継続支援B型 町屋あさがお  
就労継続支援B型・就労移行支援 小台橋あさがお
- その他目的を達成するために必要な事業

## 問い合わせ

住所 荒川区町屋3-28-2  
スタートまちや  
電話 3810-3900  
(町屋あさがおと兼用)

## あさがお作業所の主な車両の出入りについて

おおよその時間	車両の出入り
7 : 30	職員が出勤（入庫）
8 : 30	利用者（60名程度）が出勤（一部、送迎あり）
9 : 00 ~ 10 : 00	パン（保育園の給食用等）配送用車両2台が出庫 正午頃、入庫
10 : 00 ~ 10 : 30	パン（一般販売用）の販売先、仕出弁当（施設利用者等）業者の車両計2台が入庫 出庫
14 : 00 ~ 15 : 00	納品のため、車両1台が出庫 16時頃、入庫 仕出弁当（施設利用者等）業者が容器引き取りのため、車両が入庫 出庫
16 : 00以降	利用者及び職員が退勤（一部、送迎あり）

他に、作業所へ仕事を発注している事業者の車両の出入り有

## 私たちのビジョン

**私たちは、国籍、言語、文化の違いをお互いに尊重する多文化共生社会を目指しています。**

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることがなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。

多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

### ■ 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「ところ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### ■ 少数者のカブツ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自身が自分自身を支えていく

### ■ 社会へのアプローチ

「日本人」「日本社会」が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者と共に生きていく

## 私たちのミッション

**外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。**

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかファミリースクール」の実践など、外国にルーツをもつ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子ども達を正規の学校へつなげます。

**外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。**

「たぶんかファミリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子どもたちが日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

**国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。**

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を社会に広げます。

## 沿革

- 2001年 「多文化共生センター」東京21設立
- 2005年 「たぶんかファミリースクール」スタート
- 2006年 国際交流基金「地球市民賞」受賞
- 2007年 特定非営利活動法人 多文化共生センター東京として独立
- 2008年 12月 かねのり財団「かねのり賞」受賞
- 2008年 6月 荒川区「ハートフル日本語対応指導事業」スタート
- 2009年 4月 「親子日本語クラス」事業スタート(文化庁委託事業)
- 2010年 4月 文部科学省・国際移住機関(IOM)受託事業「定住外国人の子どもの就学支援事業(虹の架け橋教室)」スタート
- 2011年 6月 国税庁より認定NPO法人認定を受ける
- 2013年 8月 新宿区の新たな久保にたぶんかファミリースクール新宿校開校
- 2013年 12月 第2回 NPOエクセレント大賞「課題解決力賞」受賞
- 2015年 2月 「定住外国人の子どもの就学支援事業(虹の架け橋教室)終了
- 2016年 9月 公益財団法人ソノチミスタ日本財団「社会ボランティア受賞」受賞
- 2016年 5月 国税庁による認定NPO法人資格終了

## ご支援方法

さまざまなご支援方法があります。  
詳細はホームページをご覧ください。 <http://tabunka.or.jp/>

### ▶ ご寄付

#### ▶ たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかファミリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭の子どもたちへのご支援

#### ▶ 一般寄付

多文化共生センター東京の活動全体へのご支援

#### ▶ 月額サポーター

毎月定額のご寄付を継続的にお願いいたします。ご支援方法です。

#### ▶ 正会員・賛助会員

多文化共生センター東京の趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる方

正会員は、総会での議決権があります。

#### ▶ ボランティアとして活動に参加

土曜日学習支援プロジェクトや広報活動のボランティアとしての参加

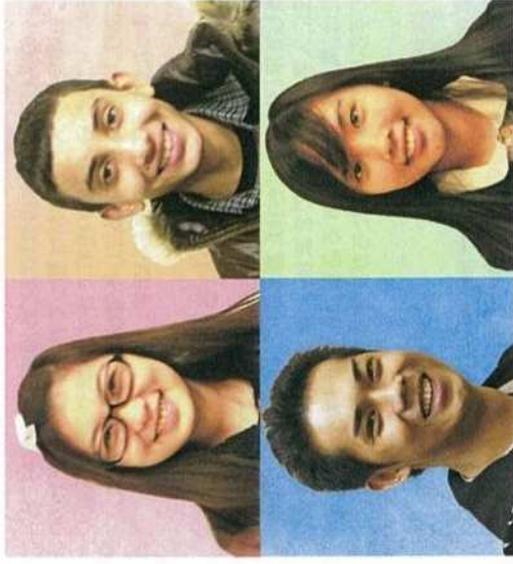
学びあい、わかりあう



NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center Tokyo



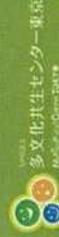
私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。

外国にルーツを持つ子どもたちの教育とくに高校進学支援に力を注いでいます。

<http://tabunka.or.jp/>

[f facebook.com/tabunkatokyo](https://www.facebook.com/tabunkatokyo)

[E @tabunka\\_tokyo](mailto:info@tabunka_tokyo)



多文化共生センター東京

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京 たぶんかファミリースクール荒川本校/事務局

所在地: 〒116-0011 東京都荒川区西尾久6-9-7 3階

TEL/FAX: 03-6807-7937 メールアドレス: [tokyo@tabunka.jp](mailto:tokyo@tabunka.jp)

開設日: 火~金曜日 9:00~18:00 土曜日 10:00~19:00

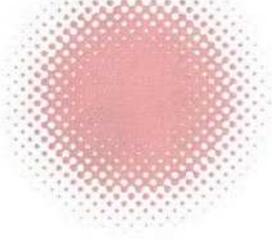
特定非営利活動法人 多文化共生センター東京 たぶんかファミリースクール新宿校

所在地: 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-14 コーポビル101

TEL/FAX: 03-5389-8825 メールアドレス: [tokyo@tabunka.jp](mailto:tokyo@tabunka.jp)

開設日: 月~金曜日 9:00~18:00

## 知っていますか？ 外国にルーツを持つ 子どもたちが抱える課題



### ！不十分な受け入れ体制

日本の学校では、日本語教育など外国にルーツを持つ子ども達を受け入れる体制は整っておらず日本語がわからないことから、授業が理解できず、言葉や習慣の違いもあり、学校になじめず孤立し不登校になったり、中退してしまったりする子どもたちもいます。

### ！学ぶ場のない子どもたち

「15歳以上で来日した子どももしくは母国で中学校を卒業して来日した子ども」は、基本的には日本の公立中学校に入学することができません。また、高校に入るためには、高校入試に合格する必要がありますが、そのための学ぶ場のない子どもたちが多いです。

### ！高校受験の壁

都立高校の入試問題は、一部の高校で実施される「在京外国人生徒枠」の入学試験を除けば、他の生徒と全く同じ内容で、そのほとんどの高校が5教科での試験を課しています。しかし、来日まもない子どもたちは、日本語にレベルがあるために、進学できる高校の選択肢は限定されます。

### ！低い高校進学率

東京都の公立中学校に在籍する外国籍生徒は2,770人ですが、都立高校は1,294人です。(2015年度)<sup>\*1</sup>日本の高校進学率は約98%と発表されていますが、「外国にルーツを持つ子どもたちの高校進学率は非常に低いと推定されます。」

<sup>\*1</sup> 東京都総務局統計部「学校基本調査報告書」  
東京都にある私立に進学した外国籍生徒のデータは公表されていません。また、日本国籍で日本語を母語としない生徒数のデータは存在しません。



## 私たちの取り組み

**1** 外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています

### たぶんかワリースクール

…主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指して、日本語や教科の学習をサポート

- ▶ 荒川校 火曜日～金曜日
- ▶ 新宿校 月曜日～金曜日

### ハートフル日本語適応指導

…荒川区「ハートフル日本語適応指導事業(通室による初期日本語指導及び補充学習指導)」  
…外国から荒川区立小・中学校に編入した子どもたちの日本語初期指導等

**3** ボランティアとして多くの方に関わって頂く機会を提供するとともに、子ども一人ひとりにきめ細かいサポートを行っています

### 子どもプロジェクト(学習支援)

…中学生以上を対象に、日本語や学校の教科をサポート

- ▶ 毎週土曜日 15:30～17:30

### 親子日本語クラス

…小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは学校のお便りなどの生活に必要な日本語をサポート

- ▶ 毎週土曜日 13:00～15:00

とくに高校進学支援に  
力を注いでいます。



**2** 外国にルーツを持つ親子へ  
多言語で教育に関する情報を提供しています

### 多言語による高校進学ガイダンス

### 教育相談

…外国にルーツを持つ子ども小・中学校編入や高校進学に関する相談に応じます。

**4** 多くの皆さんに知っていただくための  
働きかけをしています



- 外国にルーツを持つ子どもたちの教育実態調査
- 研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- メールマガジン、ブログ、ニュースター「みんなる」の発行

NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

# mingle

みんぐる

2016.11  
Vol.54

TOP  
NEWS

2017年度  
都立高校入試について



**特集**

**たぶんがユースフェスタ2016  
鎌倉方面遠足**

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化VOICE 4

イチオシ & インターンの声 5

たぶんがフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね! 多文化共生センター東京のできごと 9



NPO法人

## 多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

ホームページリニューアルしました!

<http://tabunka.or.jp/>

facebook.com/tabunkatokyo

@tabunka\_tokyo

### 私たちのビジョン

**私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。**

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

#### ■ 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

#### ■ 少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

#### ■ 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

### 私たちのミッション

**外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。**

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

**外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。**

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

**国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。**

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

### 私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

#### ：たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

#### ：教育相談

：多言語による高校進学ガイダンス

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

：外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査  
：研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー  
：メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

#### ：子どもプロジェクト(学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

#### ：親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

# 2017年度都立高校入試について

11月に入り、「たぶんかフリースクール荒川校、新宿校」では、高校説明会や公開授業参加への説明の時間が増えてきました。昼休みや放課後には、進路について先生と面談する真剣な生徒の姿があります。11月現在「たぶんかフリースクール」の生徒数は63名と昨年と変わらない数です。

昨年は、在京外国人入試対象校が3校から5校となった一方で、全日制課程の入学選抜教科は5教科となりました。特別措置として来日3年以内の外国籍生徒に対しては、辞書持ち込み（数学、社会、理科、英語但し国語不可）、10分の時間延長の措置が加わったものの5教科の壁は大きく、外国にルーツをもつ子どもたちの高校進学への道は、依然として厳しい状況があります。

## 2017年度都立高校入学選抜について

◇在京外国人生徒対象入試 ー多摩地区に1校、府中西高校が開設！ー

多摩地区に初めて1校が開設され6校となりました。4月募集人数は計110名です。（国際高校25名、飛鳥高校20名、田柄高校20名、竹台高校15名、南葛飾高校15名、府中西高校15名）今まで、遠距離のため在京校に通いたくても通えなかった多摩地区の生徒が在京校入試を選択できるようになり前進です。しかし、まだまだ在京校の数は足りません。昨年度は5校95名の在京定員校に対して197名の生徒が応募し、倍率は2倍を超えていました。今後も地域や普通科以外の高校なども考慮した多様な在京校が必要です。

## ◇一般の学力検査における特別措置について

東京都教育委員会の「平成29年度東京都立高等学校入学選抜検討委員会」の平成28年度入学選抜報告書の中の「一般の学力検査における外国籍の者の受検についての措置」で、あらたに導入した辞書持ち込み、時間延長措置について高等学校長（回答数231）と中学校長（回答数53）対象のアンケート調査では「効果あり」及び「どちらかといえばそう思う」との回答は7割を超え、今年も同様の方法で継続実施するとしています。5教科となることで外国籍生徒の全日制課程への進学が困難にならないための特別措置ですが、当事者である受検生徒の声の調査はなく、本当に効果があったかどうかの検証としては非常に不十分です。フリースクールの子どもたちからは、「一番辞書を使いたいのは国語」「3教科で受けてい」等々の声があります。なお、アンケート中の意見で高校から「志願者の中にルビ振り等の措置について知らない者がいた。受検者が申請可能な措置について一層周知する必要がある。入学願書を取りに来た生徒に措置申請の全書類を渡すことを検討している」ことや中学校からは「外国籍生徒に限定しているため、日本語の習得が十分でないにもかかわらず日本国籍をもっているために特別措置を受けられない生徒がいる現行制度には課題がある」とする重要な意見が出されています。特に日本国籍で日本語が十分でない生徒については、早急な改善が必要です。

今年度は「特別措置、在京外国人入試の選抜方法等」について検討する有識者が入った特別部会が、初めて設置、開催されています。その報告内容等については、子どもたちの実態を反映したものであるか注視していくことが必要です。高校選択の幅が広がり「この高校に入ってよかった」「この高校においでよ」と子どもたちが言えるよう入試方法の一層の改善を求めたいと思います。（伊木）



# 特集1 たぶんかユースフェスタ2016

9月11日に「たぶんか★ユースフェスタ2016」を日暮里駅前イベント広場で開催しました。早朝はあいにくの雨模様で空は黒い雲に覆われていましたが、フェスタが始まると、雨雲はすっかり消えました。

「たぶんかフリースクール」の子どもたちは屋台で水餃子を売ったり、来場者に自分の母語でメッセージを書いたオリジナルメッセージカードをプレゼントしたりとがんばりました。ステージでは在校生だけではなく、卒業生もダンスや歌や演奏を披露してフェスタを盛り上げてくれました。

フリースクールの生徒だけでなく、土曜日子どもプロジェクトに来ている中学生もボランティアさん達と一緒に「世界のカップラーメン」を売ったり、親子日本語クラスの子も母国のお化けの絵を描いたり会場ではトレジャーハンティングをしたりして、楽しんで参加できました。

今年度のフェスタでは、卒業生も運営に協力してくれました。そのうちひとり「たぶんかフリースクール」の子ども達のダンス指導を担当。子どもたちを時に厳しく、でも愛情を持って指導してくれました。

そして最後は、ステージにたくさん子ども、若者、そして大人があがり、みんなで「ファレル・ウィリアムス」のHappyにあわせてダンス！みんなの笑顔がステージいっぱいにはじけた「たぶんか★ユースフェスタ2016」のフィナーレとなりました。



今年も「たぶんか★ユースフェスタ」開催のために多くの団体にご協力いただきました。

共催団体の東京ボランティア市民活動センターさん、荒川ボランティアセンターさん、特別協賛のUBSグループさん、誘導やごみの管理など一手になってくださった地域のボランティアのみなさん、快く出店をひきうけてくださった日暮里マルシェさん、すばらしいフィナーレを演出してくださったエキゾチックジャパンとCKC& ブラジルオプションのみなさん、そして出店やステージでパフォーマンスして下さったすべてのみなさまに心より感謝申し上げます。

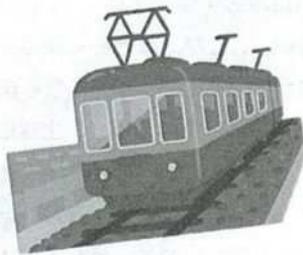
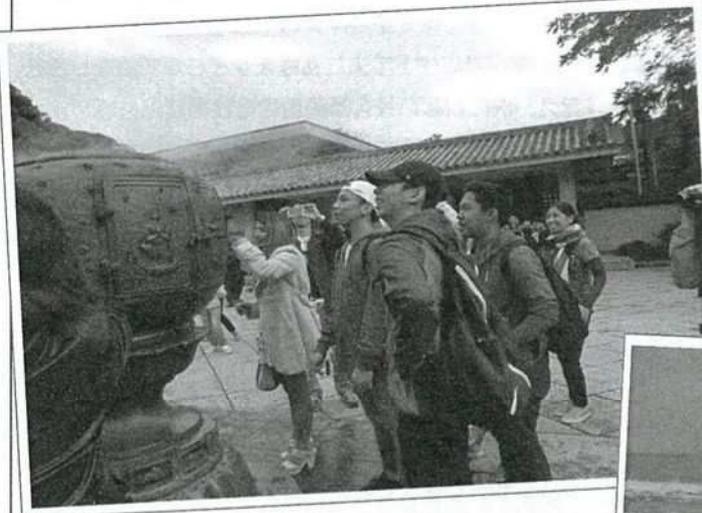
## 特集2

# 鎌倉方面遠足

今年度も株式会社セールスフォース・ドットコムのご支援で鎌倉遠足を10月29日(土)に実施しました。今年で4回目になる鎌倉遠足ですが、子ども達が日本の文化や自然にふれたり、勉強した日本語を使ったりする機会をつくりたいという目的で開催しています。

当日はセールスフォース・ドットコム社員ボランティアのみなさん、「たぶんかフリースクール」の子ども達、講師・スタッフ・インターン、計104名が参加。あいにくの曇り空でしたが雨はほとんど降らず、予定どおりの行程を楽しむことができました。

荒川校のチームは鶴岡八幡宮や大仏を見た後、由比ヶ浜の浜辺で海を満喫。水の冷たさにもひるまず、次々とズボンの裾をまくりあげて海へ。江の島コースをまわった新宿校のチームは展望灯台からの眺めに歓声をあげ、「向こうにフィリピンがあります!」と水平線の彼方を指さす子もいました。



### ＜生徒の作文から＞

◆鎌倉の遠足はとても楽しかったのです。大仏はきれいだったんです。そしてすごく大きかったです。まさにジャイアントみたいです。大仏の中に入ることができます。しんじられませんでした。

◆土曜日はとても楽しかった。この日をぜったい忘れない。鎌倉は初めての場所です。大仏はとても面白かったです。また江の島も面白い。いい景色がありました。

◆土曜日に学校でひがえり旅行にいきました。かまくらで小さい電車にのったり、大仏を見たりしました。それから大仏の中にはいりました。ネパールは大仏の中にはいることはできません。ひるごはんの時うどん以外ぜんぶ食べてみました。たまごとえびの料理がいちばんおしかったです。

◆ごごは江の島に行きました。シーキャンドルへ行く前にどうろでさかだちをしている人(注:大道芸人のことです)がいました。タイにはフラフープをまわす人がいます。シーキャンドルの上からけしきを見ました。とてもきれいでした。そのあと海へ行きました。みんなと写真をとって、さんぽをしました。えんそくのことをわすれません。

戴 思憶 さん

私は 2010 年に多文化フリースクールを卒業し、インターンとして戻ってきました。最初に多文化にきたのは、高校に入り、そこから夢の脳科学の道を歩みたいと言った自分の考えに母が呆れ、もう中国に帰れと言われ、仕方なく帰ったものの、やはりどうしても諦めたくないで父に相談した結果、父が無理して何ヶ月分のお金を自分に渡し、二回目日本に来させてもらった時でした。

当時は不安ばかりでした。しかし、やはり高校に入らないとといういろいろ調べた結果、多文化の事を知りました。当時の自分はもうすでに 19 才、自分でもおかしいと思う年齢で、相手にされるのだろうかと思いつつ、とりあえず行ってみることにしました。すると、先生たちが想像以上に熱心にいろいろと話を聞いてくれたり、高校について教えてくれたりして、肉親の母にも、仕事先でも冷たくされた自分にとってはこれ以上ない温もりを感じました。しかし、現実には厳しく、学校までの距離やいろいろな費用の問題もあり、しばらく通ったもののやはり続けられなくなり、やめてしまいました。それからはほぼ仕事と自宅勉強のみでした。でも時々声をかけて応援してくれる先生たちから力を貰って、一年目は落ちたが、二年目は無事に都立高校に合格ことができました。

高校生活も人生で一番楽しいくらいよくて、頑張っただけで私立の芝浦工業大学に合格し、ようやくこれからは安心できると思い通い始めました。ところが、学校の授業が想像以上に難しく、今までの仕事と両立はできそうもなく、翌年国公立に合格できればと、思い切って芝大をやめました。しかし、現実にはそんなに甘くなく、ほぼ半年だけで準備期間が足りず落ちてしまいました、そこからはさらに地獄でした。今度こそ本気出そうと仕事もろくにしないで自宅に閉じこもって勉強したら、今度はなんとセンター試験の出願の時期に気づかず、出願できませんでした。それはもうすでに 25 の自分にとっては天が落ちるくらいで、死ぬ（逃げたい）ことすら脳に浮かんだのでした……でもすぐにそれでは親父はまるで自分を死にに送り出したような事になると思い、すぐに冷静になりました。そして、なにも考えられなくた

だほんやり携帯を見ているうちに時々声をかけてくれる一つの存在に気づきました。「はげき先生」という連絡先でした。

試しにメールを送ると、すぐに会いたいというメールをもらいました。あってみていろいろ話していると、世界は広いのに自分はその一角ばかり見つめてる事に気づきました。もっと自分の世界を広げようと、それを機に一つの提案に乗りました。多文化のインターンをやってみる事です。

5 年ぶりに帰って来た私はまずどこかで懐かしさを覚え、次に新しい校舎や先生に母校の変化を感じました。仕事はどれも始めてで、最初は何が何だかわけがわかりませんでした。決して今でも分かったとは言えませんが、少しずつ自分が任されてるポジションの輪郭が見えてきた気がします。また、授業のアシスタントをやると授業の見方も一変しました。以前はただ「そんなにたくさん聞くと、頭が爆発しちゃう！」と思ったのが「まだここも分かってないのか、家でもたくさん勉強しないと！こっちももっと教えないと」とか「いろいろ母国でやって無かったりして、大変と思うけど、これくらい日本の中学の子は全部分かってるはずだ。やるしかない！」とか、おそらく僕の先生もそう思っただろうようなことを思うようになりました。

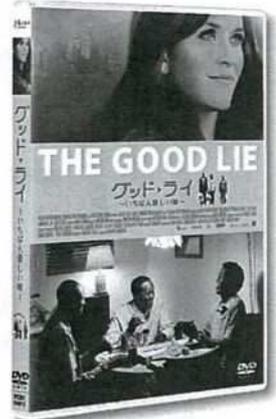
これらはおもに平日の風景で、土曜になるとまた変わってきます、今度は 4 才の子から高校生までが来ていて、それぞれの関わり方があり、それもまたとても大変ですが、面白いです。そして何より、たくさんのボランティアの方の生き方を聞き、応援してもらったり、子供の真剣な勉強振りにこちらが励まされたりして、まだまだ俺も一緒に頑張らないとと、三度目の大学受験を確信させてくれています。

いろいろと失敗談ばかりの私なんですけど、高校に入り直すと決めた時点からずっと「人生は一度きり、ならば、やりたいことはやらなくちゃ！」を信念にがんばってきました、これからもそれを貫いて頑張っていこうと思います！こんな複雑な経緯を持つ私はただ日本にいる外国人中の一人です、ここにはたくさん私みたいな子がいます、きっとそれぞれ自分のストーリーがあります。或いはこれから作っていきます。そんな彼らに関わってみませんか？

# イチオシ



『グッド・ライ〜いちばん優しい嘘〜』  
2015年アメリカ  
監督：フィリップ・ファラルドー



Blu-ray & DVD  
発売元：キノフィルムズ

1983年アフリカ大陸のスーダンで内戦が始まり、数万人の子供たちが両親の命と住む家を奪われた。2000年になりアメリカとスーダンが協力し、難民キャンプで育った3600人の若者たちを全米各地に移住させる計画を実施。この映画は‘ロストボーイズ’と名付けられた彼らの、実話をベースにした物語だ。キャストには現在外国に住むスーダン人を起用し、そのうち元少年兵だった2人は俳優やラップアーティストとして活動し、様々な方法で平和を訴えている。

カンザスシティの職業紹介所で働くキャリアは、スーダンから到着したマメールと2人の仲間たちを空港まで迎えに行く。彼らは内戦で両親を亡くした、“ロストボーイズ”と呼ばれる難民たちだ。そつなく仕事をこなしてきたキャリアに与えられたのは、電話を見るのも初めての彼らを就職させるという、最難関のミッションだった。仕事も見つかり、徐々に新生活が軌道に乗り始めたかに見えたころ、悪い報せが入る。仲間の1人が「いくら働いても誰にも相手にされない」と怒りと悲しみを爆発させて問題を起し、警察に連行されてしまったのだ。そしてその事件は、アメリカ生活でマメールたちがひっそりと耐えていた痛みや不満を暴きだしてしまう。傷つかないで済むからと、他人と距離を置いて生きてきたキャリアが、3人を助けようと立ち上がる。そしてマメールが最後についた“いい嘘”とは…。

最初キャリアは彼らの過去にとりわけ興味を抱かず(初対面の時には“スーダン”という国名さえ出てこない)、ただ仕事として接している。しかしだんだんと彼らのことを知り、友情が芽生え、キャリアにとってもマメールたちにとっても、お互いの人生観を変える出会いになっていく。「自分には関係のない遠い国のこと」と思っていたことが、相手を知って関係を深めることで、胸を痛め、考え、行動することにつながっていく。2つの異なる文化が出会った時、その壁を越えて孤独や家族の大切さといった思いを共有していく過程を描いた、エモーショナルな物語だった。(中野)

多文化フリースクール新宿インターンを振り返って

## インターンの



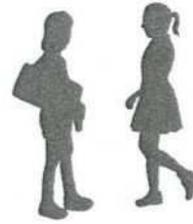
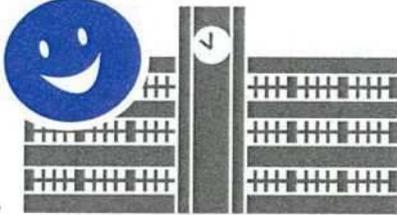
私は初めて多文化フリースクールにきた時、まだ15、6歳の子どもで、多文化で働いている皆さんに憧れ、いつか自分もそんな風に誰かの役に立ちたいと思いました。インターンをやってみないかと声が掛かった時、私は自分ができるがどうかの不安と同時にやってみたい気持ちでいっぱいでした。始める前、仕事の肝は常に子どもの側に立ち、彼ら・彼女らの気持ちに耳を傾ける事であると伝えられました。実際仕事を始めると予想していたよりもずっと自分の励ましになりました。

日本に来たくてきた、居たくてという子どもは実は少ないです。皆は色々な事情を抱え、孤独、不安、期待など複雑に入り混じる気持ちで日本にきて、大変な日々を送っています。多文化では勉強だけでなく友達を作り、誰かに話を聞いてもらう。それだけでも心が軽くなる。そして、多文化の先生達は彼ら・彼女ら一人一人をしっかりと見守り、まっすぐに向かい合う。言葉通じなくて大変な時もありますが、少しずつ信頼感と安心感が生まれ、共に納得するまで答えを探せる。逆境の中でも諦めない精神、苦しい時でも他人を思いやる姿は多文化にありました。

私は丁度色々悩む時期で、なかなか一歩踏み出せずにいました。彼らの姿をみて、かつての自分を懐かしむだけでなく、今の自分が進むべき道を開く勇気をもらいました。これからも挫けそうな時にそっと思い出して、励みにしたいと思います。最後に、私を優しく見守って下さった多文化の先生達に感謝の気持ちを捧げたいと思います。

# たぶんか フリースクールの 毎日

TABUNKA  
FREE SCHOOL



## 〈たぶんかフリースクール荒川校〉

4月、12名から始まった荒川校。今年の始まりは去年よりも生徒が少なく、なかなか生徒が増えないと思っていたのですが、9月以降どんどんと生徒が増え、現在、中国、フィリピン、ネパール、エジプト、35名の生徒が通っています。教室もだんだん狭くなり、講師控室も区切って教室にして、先生たちもフル回転で授業をしています。生徒たちはこの間の行事を通して、自分のクラスだけでなく、ほかのクラスの生徒とも仲良くなり、お昼休みになると「何がそんなに楽しいの？」と思うくらい楽しそうな笑い声があちこちから聞こえてきます。

その一方で11月に入り、担任の先生との二者面談を皮切りに、高校進学ガイダンスや、高校見学、模擬テストが始まり、生徒たちも少しずつ受験を意識し始めました。「高校見学に申し込みたいです。どうしたらいいですか?」「この高校のテストはどんなテストですか?」生徒たちからも高校や受験の質問が出てくるようになりました。たぶんかコースフェスタに鎌倉遠足、楽しい行事が終わり、いよいよ今年も受験シーズン到来、これからが本番です。(千田)



## 〈たぶんかフリースクール新宿校〉

10月になり、都立高校の学校見学や説明会、模擬試験が始まりました。担任の仕事も忙しくなります。受け持ちの生徒と学校で話さきれないときは、携帯電話で連絡を取るようになります。無料アプリを使って簡単な日本語でメッセージを送ります。タイの男子生徒のG君はいつもすぐに返信をくれます。私の休みの木曜日の朝、そのG君からメールが来ました。新宿校のドアの写真と、「先生。ドアがまだあけません」というメッセージ。いつもよりずっと早く学校に着いてしまったようです。そして前日に勉強したばかりの自動詞と他動詞を混同してしまっています。「ドアが ~ています。?」と返信すると、「ちょっとまって」「ドアがしまっています」と返ってきました。良かった、良かった。朝から復習ができました。

いつもマイペースで淡々としているネパールのA君が、大事なメールに返信をしてくれませんでした。翌朝理由を聞いてみると、「毎日たくさんメールがきます。日本語なので読みません」と言います。「誰からのメール?」と問うと、「電話の会社とか」と答えました。あら、大事なメールも広告も混ざってしまっています。私の番号を登録するように言ったところ、その日の午後「はい、先生。」と返信が届きました。一件落着です。私のスマートフォンにはたくさんの卒業生の名前が登録されています。彼らが卒業するとき、「もう先生から連絡はしません。でも先生と話したい時、必要な時はいつでもメールをください」と送り出しました。時々、とても上手になった日本語でメッセージが来ます。私の宝物です。(石塚)

## 〈GAPストア体験〉

たぶんかフリースクールは、Gap Inc. (ギャップ財団)より助成をいただき、キャリア教育プログラムを行っています。その一環として、9月30日(金)、新宿校の生徒たちがGAP銀座店、GAP吉祥寺店、GAPらぼーと立川立飛店、BANANA REPUBLIC 六本木ヒルズ店でストア体験を行いました。

新宿校の日本語3クラスが始まったのは9月12日だったので、この時点で日本語3クラスの生徒たちはやっとひらがなを覚えてくれたのでした。この様子で大丈夫かな…と心配だったのですが、状況をお伝えしていたので、それぞれの店舗で言葉がわからなくても伝わるように工夫していただき、みんな楽しく過ごせたようです。



BANANA REPUBLIC 六本木ヒルズ店では、開店前の店内で「今月いちばん売れたアイテムを探すクイズ」をやっていただき、緊張していた生徒たちの表情もだんだんほくれてきました(男子ばかりのチームだったのでファッションには疎いのか、なかなか当たりませんが…)。開店後は実際にお客様がいらっしゃる店内で挨拶をしたり商品を整えたり、レジのお仕事体験もさせていただきました。バックヤードでは商品をたたんだりアイロンをかけたりしながら社員のみなさんが生徒たちにいろいろ話しかけてくださり、生徒たちはちょっと照れくさそうに、でも一生懸命自分のことを話していました。最後はメッセージつきの修了書をいただき、みんなとても嬉しそうでした。ギャップジャパンのみなさん、ありがとうございました!(中野)

## 〈ハートフル 荒川区日本語適応指導事業〉

荒川区の教育センターの一室を教室として拝借して初期の日本語指導を行っております。4月12日から始まった平成28年度荒川区日本語適応指導事業は、半年間に学校から取り出しの朝3時間、週4日の「通室による初期日本語指導」では16名、そして、夕方から2時間、週3日の「補充による日本語指導」では10名が学んできました。中国、フィリピン、ネパールの多国籍の生徒達です。生徒の日本語レベルは、日本語をまったく勉強したことがない生徒から日常会話やかなり漢字もできる生徒までさまざまなので、個々の状況に対応した指導が欠かせません。本年度は学校現場の会話も積極的に導入した

ところ、意欲ある生徒達の努力もあって、「通室による初期日本語指導」が終了する2か月後のころには、日本語にもかなり馴染んで、日常会話や学校での会話も出来るようになってきています。引き続き、3か月間の「補充による日本語指導」を受けた生徒は、補充生徒用教科書や問題演習でスキルアップして、学校の授業に遅れないよう頑張っています。学校生活にはまだまだ不安を抱えている生徒達ですが、日々、落ち着いた活気のある日本語の勉強にエールを送っています。(根岸)

# ポランテイア<sup>®</sup> かつどうほうこく 活動報告

## 親子日本語クラス



10月22日、親子プロジェクトでは、少し早めのハロウィンパーティーを開きました。事前にハロウィンの説明をし、映像やグッズを見せてパーティーをすることを予告していたため、当日の子どもたちはやる気満々。「勉強するもの持って来ている？」と聞くと、いつもは日本語のテキストや算数の宿題を出してこる子ども、今日に限っては目を輝かせながらハロウィングッズを上げます。

なんとか一時間だけ勉強してもらい、パーティースタート！

まずは、一列に並んで仮装グッズを選ぶところから。仮面やカチューシャなど様々なグッズが並んでいましたが、男女共通して人気だったのはボディシールやペ

イントグッズ。普段は出来ないメイクが新鮮だったようです。また、パーティーは苦手なのか終始座っている子がいたり、あまり前に出ない印象の子が仮面姿を写真に撮らせてくれたり、勉強の時とは違う一面を垣間見ることができました。

仮装後は、Trick or treat! と言いながら各教室をまわり、みんなでお菓子を食べました。パーティー後は「その格好のまま帰るの!？」という姿で、楽しい思い出ごと仮装グッズを持ち帰ったようです。

学校ではできない、多文化ならではのハロウィンが出来ました。最後になりましたが、お菓子やハロウィングッズをたくさん提供してくださった皆さま、ありがとうございました！（羽深）

## 子どもプロジェクト



今のクラスの様子は、受験のための面接や数学を勉強したいという声が増えており、噂に聞くところの受験シーズンの到来が近づいているようです。作文と面接であったり、5教科であったりと試験科目は受験生によって違うようですが、それぞれの目標に向けてみんな懸命に勉強にしています。私は受験の理数系は教えられませんが社会科は時々教えることがあります。日本に来て間もないにも関わらず、日本の歴史を日本語で理解するのはやはり少し大変そうです。そんな中、時折漠然とした質問をされることもあり、かなり焦ります。けれども、某知恵袋の助けを借りるわけにはいかないので、そんな時、頭をフル回転させ、歴史という大きな河に漕ぎ出してみると、暗記で詰め込んだだけの一つ一つの知識が次々と繋がりと、広がっ

て、現在の私たちの生活に繋がっていることを感じ、毎度毎度感動すら覚えます。感動とは少し言い過ぎかもしれませんが、魅力あふれる歴史や社会科の良さを伝えたい、みんなが嫌いな社会科はとってもおもしろいんだよ！という、まるで私が中学校高校で出会ってきた先生たちが発していた類のうっとおしいほどの情熱が、小さくわが身にも宿っているのを感じます。ただ何となく覚えただけの知識が、この年にして感動に変わり、また子どもたちに教えることができると思うと、あの時の受験勉強も頑張ったよかったと思うのと同時に、社会科の苦手な子どもたちにも頑張ったという経験や、教養として社会科を自分の力にしてもらいたいなと思った今日この頃です。（中村）



# いいね!

facebook.com/tabunkatokyo

## 多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



**50人**のかたが「いいね！」を押してくれました。

10月12日

10月9日(日)は東洋大学白山キャンパスにて「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」でした。朝はどしゃ降りの雨で不安だったのですが、開始の少し前にはすっきりと雨が上がり、16階のスカイホールの窓からは光が差し込んだ雲が薄く広がる美しい光景を見ることができました。お天気が回復したおかげで41家族83人の方に来場いただき、スタッフは椅子を追加するのに走り回っていました。

今回は2017年度入試から在京外国人特別枠を実施する学校に府中西高校が加わるというニュースもあり、みんな一生懸命に聞き入っていました。

個別相談でもいくつかのブースをまわり、先生方に叱咤激励されている姿が見られました。お父さんお母さんも、通訳の方がいるおかげでこれまで心配だったことがきちんと聞けたと喜んでくださいました。



**61人**のかたが「いいね！」を押してくれました。

10月17日

高校3年の卒業生Pくんが、大学を見に行った帰りにクラスの友達を連れてフリースクールに寄ってくれました。

「なつかしいなあ。ここで勉強してたんだよ。場所がなくて台所でも勉強したんだ。」彼はなんだか嬉しそうに友達に話しています。

休み時間になり、生徒たちが教室からどっと共同スペースに押し寄せ、あれよあれよとPくんとお友達の周りを取り囲みました。

Pくんは慣れているのですが、お友達のほうは驚いたのか棒立ちで、自分の周りで話されている中国語やネパール語や英語の響きに目を丸くしていました。ネパールの生徒たちとPくんが話している様子も興味深そうに見ているので、「Pくんがネパール語で話してるのを見るのは初めて?」と聞くと、「はい」。

「英語も得意だし、フリースクールにいた時からほとんどトリリンガルだったんだよ」と言うと、「すごいじゃん」と感心した様子。ちょっと照れくさそうなPくん。

卒業生はよく遊びに来るのですが、たまにこうやってクラスメイトを連れてくることがあります。その子たちはフリースクールの様子に驚くとともに、学校で一緒に過ごしている友達がどんな努力をして高校生になったかを知り、目を見張ります。

Pくんにとってフリースクールが友達に紹介したい「母校」であることを嬉しく思うとともに、彼のお友達にとってもこのひと時がいい経験になってくれていればいいなと思いました。

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。

皆様「いいね！」をよろしくお願いします。

## ご支援方法

多文化共生センター東京の活動や、当団体で学ぶ子どもたちをサポートするさまざまなご支援方法があります。

### ◇正会員・賛助会員

多文化共生センター東京の趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる方

■正会員 年会費 5,000 円 (年次総会での議決権あり)

■賛助会員 (個人) 1 口 年会費 3,000 円 (複数口可)

■賛助会員 (団体) 1 口 年会費 30,000 円 (複数口可)

### ◇ご寄付

■一般寄付

多文化共生センター東京の活動全体へのご支援

■たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭の子どもたちへの支援

■月額サポーター

毎月定額のご寄付を継続的にお寄せいただくご支援 (月額 1000 円、3000 円、5000 円、10000 円)

その他任意の金額も設定いただけます

### ◇申込み

①クレジットカード (Visa もしくは Master)

多文化共生センター東京ホームページよりお申込み

②郵便局から: 00110-8-407588

名義: 多文化共生センター東京

③銀行から: ゆうちょ銀行 019 店

当座 0407588 加入者名: トクヒ) タブンカキョウ セイセンタートウキョウ

※郵便局からの場合は振込用紙に、銀行振込の場合はお振込後にメールや電話で、「入会希望」もしくは「寄付」をご指定いただき、名前・住所・電話番号・メールアドレス・ニュースレターへのお名前掲載の可否をお知らせ下さい。

## ありがとうございます

皆様の会費・寄付は活動に大切に使用させていただきます。  
(順不同・敬称略 8/1 ~ 10/31 現在)

### ■正会員

【新規】

【継続】多田佳明、松尾沢子、根岸昇、佐藤恒久

### ■賛助会員

【新規】羽深麻美

【継続】

【団体】

■寄付

(たぶんか子ども基金) 横山千恵子、青山英保、増沢君江、匿名

(一般寄付) 松尾沢子、若島礼子、永井真理子、高橋史朗、匿名、佐藤恒久

### ＝編集後記＝

今回の「みんぐる」は「たぶんか voice」も「インターンの声」も、フリースクールの卒業生でもあるインターンのみなさんに書いてもらいました。9 月までインターンは 3 人いたのですが、そのうち 1 人が 10 月から就職が決まり“卒業”。あとの 2 人も、1 人は大学入試に向けて猛勉強しながら、もう 1 人は大学で勉強している経理を仕事にいかしてがんばってくれています。ユースフェスタでも卒業生が運営を手伝ってくれ、当日遊びに来てくれた子どもたくさんいました。

フリースクールを卒業してからも、彼ら・彼女らには大変なことがたくさんあるのだと思います。でもそれを乗り越えて進もうとしている彼らの姿は、在校生にとっても私たちにとっても励みになっています。(中野)

## みんぐる vol.54 2016年11月発行

編集: 多文化共生センター東京広報チーム

(多田佳明、中野真紀子、柁木典子、湯川光太郎)

発行: 特定非営利活動法人多文化共生センター東京

※「みんぐる」は英語「mingle」=「(2つ以上のものが各要素が区別できる程度に) 混ざる・一緒にする・交流する」から名づけました。



NPO 法人

多文化共生センター東京 Multicultural Center TOKYO

### 事務局・たぶんかフリースクール本校

(Tabunka free school, Main Campus)

〒116-0011 東京都荒川区西尾久 6-9-7 (旧小台橋小学校 3F)  
6-9-7 Nishi-Ogu, Arakawa-ku Tokyo

TEL/FAX: 03-6807-7937 E-mail: tokyo@tabunka.jp

Open: 火曜日～金曜日 9:00～18:00 土曜日 11:00～19:00

Access: 都電荒川線「小台」駅から徒歩 7 分

### たぶんかフリースクール新宿校 (Shinjuku School)

所在地: 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-17-14-101  
1-7-14-101 Hyakunincho, Shinjuku-ku Tokyo

TEL/FAX: 03-5389-8825

Open: 月曜日～金曜日 9:00～18:00

Access: JR 山手線「新大久保駅」徒歩 3 分、  
JR 中央・総武線「大久保駅」徒歩 2 分



■都営バス「東43」系統「荒川土手行」。「西尾久3丁目」下車徒歩 3 分

■都電荒川線「小台」駅から徒歩 7 分 ■JR 都営線・高崎線「尾久」駅から徒歩 15 分

## 工事概要

- 工事件名 旧教育センター及び旧荒川図書館改修工事
- 工事場所 荒川区荒川四丁目19番1号外2箇所
- 現場工期 平成29年 5月下旬 ~ 平成29年 7月中(予定)
- 工事内容
- ・旧教育センター1階にパン工場の設置(床・間仕切り壁改修、厨房機器用の給排水工事、冷暖房機及びガス給湯器の移設等)
  - ・旧荒川図書館1階に冷暖房機の移設(小台橋あさがおより)、屋外駐輪場撤去等
- 発注者 荒川区  
東京都荒川区荒川二丁目2番3号  
電話(代表) 03-3802-3111(内線2887)  
担当 管理部営繕課 小森(建築)、中川(電気設備)、柳沢(機械設備)
- 受注者
- 【建築工事】  
株式会社 サンワークス 代表取締役 岡田陽一郎  
東京都荒川区町屋三丁目9番9号 電話：03-3894-5350
- 【電気・機械設備工事】  
株式会社 スリーアイ 代表取締役 森田一好  
東京都荒川区荒川六丁目51番5号 電話：03-6240-8510
- 作業日時
- ・作業時間は、原則として午前8時から午後6時までとします。
  - ・ただし、前後1時間は、作業準備・点検・後片付け・清掃を行います。
  - ・工事作業予定看板は、旧図書館入口付近の見やすい場所に設置します。

### 工程表

	5月 中旬	下旬	6月 月上旬	中旬	下旬	7月 月上旬
準備工事	事前調査					
解体工事		駐輪場 解体				
内装工事		内装改修				
電気工事		冷暖房機電源、動力設備工事等				
機械工事		給排水設備、冷暖房機器移設、ガス工事等				
その他					清掃・後片付け 測定試験等調整等	

上記工程表は予定ですので変わる場合があります。

## 担当部署連絡先一覧

問合せ内容	課名	内線
公共施設の順次更新に関する事	総務企画課	2 1 1 1
あさがお福祉作業所に関する事	障害者福祉課	2 6 8 1
多文化共生センターに関する事	子育て支援課	3 8 1 1
工事に関する事	営繕課	2 8 8 7

区役所代表番号（03 - 3802 - 3111）にお掛けの上、  
該当する内線番号をお伝えください。